

# 斑点米カメムシ類対策

秋田県病害虫防除所より6月27日に発表された令和5年度農作物病害虫防除対策情報第3号によると、水田畦畔における斑点米カメムシ類の発生は多いと発表されています。特に畦畔にイネ科雑草が多く残っている圃場で多数確認されています。

ノビエやホタルイ等カヤツリグサ科雑草が多く残っていると、斑点米カメムシ類を圃場内に誘引する原因となります。昨年は後発のノビエが多かったことから、昨年残草したところを中心に、後期除草剤で徹底除草をしてください。斑点米被害粒が多すぎると、色彩選別機でも取り除ききれません。圃場内外の雑草を除草、草刈りで対策し、薬剤防除と組み合わせて斑点米被害を抑えましょう。

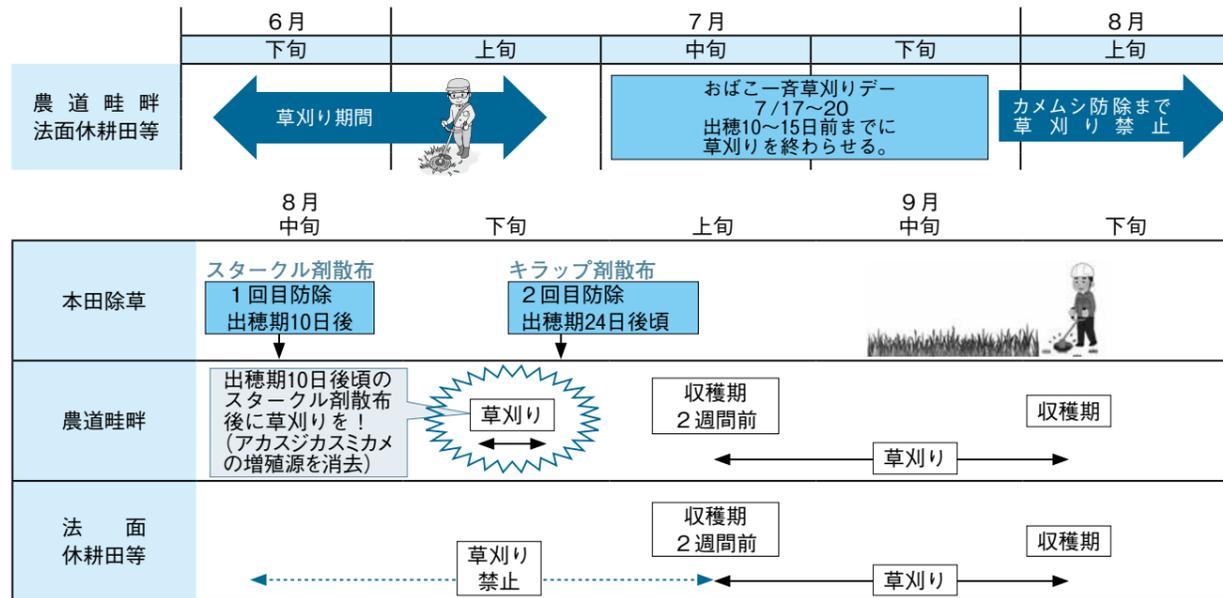
## 主なカメムシの特徴と防除概要

### 1. 耕種的防除

- ①出穂期10日後頃に薬剤防除を行い、散布後5日以内に畦畔や農道の草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草を除去します。その後、稲の収穫2週間前まで草刈りを行いません。
- ②法面や休耕田などで薬剤を使用しない雑草地は、稲の出穂10日前までに草刈りを実施し、その後収穫2週間前までは草刈りを行いません。



## 水田周辺の草刈り時期



### 2. 薬剤防除

通常の防除は出穂期10日後頃の1回散布を基本としますが、今年はカメムシの発生が多いと予報されているため、出穂期10日後頃と出穂期24日後頃の2回散布を基本としましょう。

散布時期	薬剤名	希釈倍率／散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
出穂期10日後頃	スタークル粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル液剤10	1,000倍／60～150ℓ		
追加防除 出穂期24日後頃	エクシード粉剤DL	3kg	収穫14日前まで	2回以内
	エクシードフロアブル	2,000倍		
	キラップ粉剤DL	3kg		
	キラップフロアブル	2,000倍／150ℓ		



# No.5 農業技術情報

令和5年7月発行

発行：秋田おぼこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所  
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



## 生育概ね順調だが圃場差大きい 異常気象と病害虫雑草への対策は早めに行う

6月26日現在、草丈は長く、茎数はやや少ない、葉色はやや濃い、葉数はやや多いとなっています。6月が低温だった昨年と比べると生育は良いですが、圃場によって生育差が大きくなっています。圃場に合わせた栽培管理をお願いします。

今後の気温は高いと予報されています。また、エルニーニョ現象が発生しており、今夏の天候には十分に警戒をしていかなければなりません。今からできる対策を確実に行いましょう。

## あきたこまち定点調査結果 (6/26)

	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	SPAD値	葉数 (葉)
本年値	38.7	385	44.8	8.9
平年値(平年比)	35.5 (109%)	419 (92%)	43.6 (+1.2)	8.5 (+0.4)
前年値(前年比)	30.8 (125%)	318 (121%)	46.0 (-1.2)	8.5 (+0.4)

## 栽培技術留意点

- 生育診断と穂肥判** → 圃場間差が大きいので自身の圃場・稲に合わせた水管理と穂肥判断。
- 雑草対策は斑点米対策** → 雑草に斑点米カメムシ類が寄ってくる。畦畔含めた雑草対策でカメムシの密度を減らし、斑点米リスクを下げる。
- いもち病対策** → 蒸し蒸しした日が多くなりそうなので、定期的に圃場見回りし早期対応をする。
- 異常気象対策** → エルニーニョ現象発生中。冷夏？猛暑？どちらにも対応できる稲づくりをすること。



## 農業者の経営努力で避けられない収入減少も加入で一安心！収入保険

たとえば…



令和6年新規加入受付中

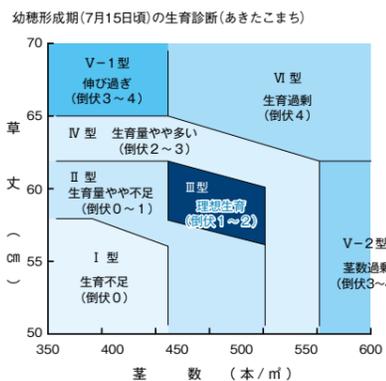
※詳しくはNOSAI秋田仙北支所まで  
TEL 0187-63-1066

# 生育診断と穂肥

異常気象下でも安定的に収量を維持しながら高品質米生産に取り組むには、自身の稲の生育状況を把握し、圃場に合った穂肥など生育管理をすることが大切です。幼穂形成期に生育・栄養診断を行い、診断結果と気象予報に応じた穂肥の検討をしましょう。

## 生育・栄養診断の実施(あきたこまち)【時期別理想生育量】

項目	時期	最高分け時期	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	上限	52	65	75
	理想	48	60	70
	下限	45	55	65
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	上限	580	560	500
	理想	540	520	470
	下限	500	480	420
葉数	上限	9.8	11	12.5
	理想	9.5	10.6	12
	下限	9.0	10.0	11.5
葉緑素計値 (SPAD)	上限	46	44	40
	理想	44	42	38
	下限	42	40	35



## 生育・栄養診断の実施(ゆめおぼこ)【時期別理想生育量】

項目	時期	最高分け時期	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	上限	54	69	83
	理想	50	64	76
	下限	46	59	69
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	上限	650	630	560
	理想	580	560	500
	下限	480	460	420
葉数	上限	9.5	10.6	12
	理想	9.0	10.0	11.5
	下限	8.5	9.5	11.0
葉緑素計値 (SPAD)	上限	41	39	39
	理想	39	37	37
	下限	37	34	34

## 幼穂形成期～出穂期の水管理

水を必要とする時期になる幼穂形成期までには中干しを終了します。その後、出穂期まで間断かん水(飽水管理)とします。中干しで十分に乾かせなかった圃場では、時折、走り水をさせながら7月いっぱいかけて徐々に乾かすようにします。

## 出穂期～登熟期の水管理

出穂前後は水を多く必要とする時期です。走り穂が出始めてから穂揃い期までは水深5～6cm程度の湛水管理とします。その後は、落水期まで2～3cmの間断かん水(飽水管理)とします。日中の最高気温32℃以上の日やフェーン現象により乾燥した風が吹くと事前に予想される場合は、前日からしっかりと湛水してください。特に台風が近づいてくる場合は要注意です。

## 穂肥一覽

肥料名	穂肥555	穂肥V545
施肥量 (kg/10a)	7～13kg (チッソ換算:1.05～1.95kg)	止葉の葉身 第2葉の葉耳 葉長10cm 止葉の葉耳が 中に入っている
施肥時期	出穂前15日	
備考	硫安系 15-15-15	塩安系 15-4-15

## 異常気象時の水管理

現在、エルニーニョ現象が発生しており今夏の天候が不安です。高温でも低温でも異常気象下では、白未熟粒や胴割れ粒などの発生により品質が低下しやすくなります。出穂期以降の対策は水管理のみであるため、何か対策をすれば今がその時期です。追肥や水管理等で今からできる対策は何でもやっておきましょう。

## 出穂期～登熟期の管理の目安

出穂後日数	-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35				
秋のきらめき	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1				
あきたこまち	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7				
ゆめおぼこ	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11				
サキホコレ	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14				
管理の目安	走り穂										出穂期										フェーン時は水管理で地温冷やせ!										出穂期10日後頃 斑点米カメムシ類 1回目防除 スタークル剤										出穂期24日後頃 斑点米カメムシ類 2回目防除 キラップ剤									
生育時期	減数分裂期										開花期										登熟期										落水期																			

※特別栽培等栽培基準が決められている場合は、それに従ってください。 ※農薬散布時にドリフト(飛散)しないようご注意ください。

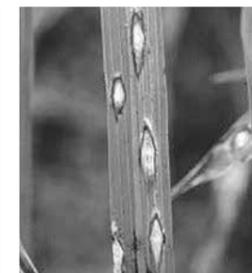
# いもち病対策は早期発見・早期防除が鉄則

いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病気です。オリゼ剤、ルーチン剤のいもち病に対する効果は7月中下旬までとされています。効果の端境期にあたる今月は、まず圃場観察をして発生の有無を確認します。周辺を含めて発生が無いようならば、通常防除で良いですが、もし、葉いもちが多発している圃場が近隣にある場合は、薬剤の茎葉散布が必要です。

## ○防除方法

農薬名	倍率	散布量(10a)	使用時期	使用回数
ブラシン粉剤DL	-	3～4kg	収穫7日前まで	2回以内
ノンプラス粉剤DL				
ブラシフロアブル	1000倍	60～150 $\frac{g}{L}$		
ノンプラスフロアブル				
コラトップ粒剤5	-	3～4kg	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	3回以内
コラトップ豆つぶ				
トライフロアブル	1000倍	100～150 $\frac{g}{L}$	出穂直前、穂揃期 収穫14日前まで	
ビームゾル	1000倍	100～150 $\frac{g}{L}$	出穂直前、穂揃期 収穫7日前まで	
ラブサイド粉剤	-	3～4kg	穂揃期、傾穂期 収穫7日前まで	
ラブサイドフロアブル				1000倍

※農薬の使用回数に注意をしてください。



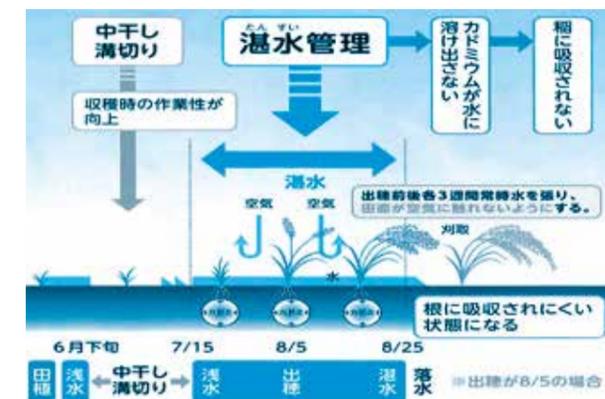
葉いもちに感染したイネ



穂いもちに感染したイネ

## カドミウム対策

対象地域では、カドミウムを稲に吸収させないため、出穂前後各3週間は常時水を張り、田面が空気に触れないように管理をしてください。カドミウムは土壌中の酸素が少ない状態になると土壌中の硫黄と結合し、水に溶けにくくなり、稲に吸収されにくくなります。



※特別栽培等栽培基準が決められている場合は、それに従ってください。 ※農薬散布時にドリフト(飛散)しないようご注意ください。